

一五 享和元年

勢多郡箱田村役人あて浄水寺留場証文〔B〕

留場とめば為ニ取替一証文之事

一其御村御示談じだん之上、双方勝手相かたてあいを以、当「十一月拙寺留場せつじニ相

定候上者、拙寺門弟共もんていハ」不もうすに及およばずレ申、他之虚無僧止宿こむそうししゆくハ勿論、

修行等しゆぎよう」為いたさせまじくレ致間敷候、依而村高式百石余ニ付、夏・秋志次なつあきしし

第だい、「例年兩度急度相納可きつとレ被もうさるべくレ申候、然ル上者」宗門之義ニ付、

六ケ敷出来候ハ、拙寺引請「貴村へ少も御苦難掛申間敷、為むずかしき

後日之一札仍而如レ件

白井山

享和元酉ノ

浄水寺印

御役人中